

D&G 読書会 2006/02/16 担当：大久保歩

ジグムント・フロイト、『精神分析入門』上巻（高橋義孝・下坂幸三訳、新潮社、1999年（改訂版））

序論 12-25 頁

・精神分析を学ぶ上での困難

1. 精神分析の指導や教育

精神分析：a) 分析を受ける者と医師との間には、言葉のやりとりしかない。医学の授業のように、目に見えるものがない。 b) 分析には患者と医師との間に特別な感情の結びつき [転移] が必要なので、傍聴者の介入を許さない。

2. 医学生 [聴講生] には哲学的な補助学問が欠けている。

精神分析：身体的障害と心的障害との合致を理解させる基礎となる共通の地盤を発見しようとする。

3. 精神分析は世間の感情を害している。ひとつには世間の知的な先入観に反するから、もうひとつには審美的・道徳的先入観に反しているから。

精神分析の主張：a) 心的過程はそれ自体としては無意識的であり、意識的過程は心的全活動のたんに個々の作用面であり、部分である。 b) 性的なものと呼べる欲動興奮が、神経と精神の病気の原因として、大きな役割を果たし、さらには、人間精神の最高の文化的・芸術的・社会的創造に対して大きな寄与をなしてきた。文化は、欲動の満足を犠牲にして創り出されたもの。